

四国初記録および分布北限記録のメギス科カメレオンタナバタメギス First Shikoku and northernmost distributional records of *Pseudoplesiops* *annae* (Teleostei: Perciformes: Pseudochromidae)

By

小枝圭太*

Keita KOEDA

黒潮生物研究所 〒788-0333 高知県幡多郡大月町西泊 560 イ
Kuroshio Biological Research Foundation, 560 Nishidomari, Otsuki, Hata, Kochi 788-0333, Japan

Abstract Nine valid species known for the genus *Pseudoplesiops* (Pseudochromidae), and three of them have been recorded from Japanese waters. A single specimen of *Pseudoplesiops annae* (Weber, 1913), was currently collected from off Komame, Otsuki, Kochi Prefecture, southwestern Shikoku. This species can be distinguished from its congeners by its fin ray and scale counts, and lacking well developed intermandibular flap. This species has previously recorded only from Iojima and Amami-oshima islands at Kagoshima Prefecture, and the former was the northernmost distributional record of the species. The present specimen represents the first record of the species from Shikoku, and the northernmost distributional record of the species.

キーワード: スズキ目・稀種・魚類相・高知県

はじめに

メギス科タナバタメギス属は体高が 20%以上、背鰭軟条数が 21–38、臀鰭軟条数が 10–21、胸鰭軟条数が 15–20、側線有孔鱗数が 1、腹鰭が 1 棘 3–4 軟条、および鰓膜が癒合しないなどの特徴をもつ (Gill and Edwards 1999)。本属には 9 有効種が知られており、そのすべてがインド・太平洋に分布する。日本からはタナバタメギス *Pseudoplesiops rosae* Schultz, 1943 のみが知られていたが、近年、吉田ほか (2013a) によりカメレオンタナバタメギス *Pseudoplesiops annae* (Weber, 1913) が鹿児島県硫黄島から、Koeda et al. (2017) によりハナサキタナバタメギス *Pseudoplesiops immaculatus* Gill & Edwards, 2002 がトカラ列島平島からそれぞれ日本初記録として報告されており、現在ではこれら 3 種が記録されている。

2020年1月22日に高知県大月町古満目沖の水深約12 mにおいて1個体のカメレオンタナバタメギスが採集された。本種はこれまで日本国内において鹿児島県の硫黄島と奄美大島からのみ記録されていた種であり、この標本は、本種の四国沿岸からの初めて記録となるともに分布北限を更新する記録となるため、ここに報告する。

方法と材料

標本の計測・計数方法は Gill and Edwards (2002) にしたがった。各形質を電子ノギスにより 0.1 mm 単位で計測し、体長または頭長に対する百分率で示した。標準体長は SL (standard length) と表記した。記載は高知県古満目沖産の標本に基づく。生鮮時の色彩の記載は、固定前に撮影された標本のカラー写真に基づいた。本報告に用いた標本は、黒潮生物研究所 (KBF) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同研究所のデータベースに登録されている。

結果

Pseudoplesiops annae (Weber, 1913)

カメレオンタナバタメギス (Fig. 1)

記載 背鰭 1 棘 26 軟条 (後部 6 軟条が分枝); 臀鰭 1 棘 16 軟条 (後部 5 軟条が分枝); 胸鰭 16 軟条 (上下 2 軟条が不分枝); 腹鰭 1 棘 3 軟条; 尾鰭 17 軟条 (上下 2 軟条が不分枝); 尾柄棘 2+2; 体側縦列鱗数 33; 側線有孔鱗数 2; 背鰭前方鱗数 8; 横列鱗数 14; 眼の後方の鱗列数 2; 頬鱗数 3; 尾柄鱗数 16; 鰓耙 4+11。

体各部測定値の SL に対する割合 (%): 背鰭起部における体高 20.5; 最大体高 22.6; 体幅 11.9; 頭長 28.3; 吻長 6.3; 眼窩径 7.7; 両眼間隔 5.0; 上顎長 10.7; 尾柄高 12.7; 尾柄長 7.7; 背鰭前長 29.2; 臀鰭前長 54.2; 腹鰭前長 25.3; 背鰭第 1 軟条長 4.1; 背鰭最長軟条長 14.3; 背鰭基底長 62.8; 臀鰭第 1 軟条長 5.9; 臀鰭最長軟条長 11.0; 臀鰭基底長 36.9; 尾鰭長 16.7; 胸鰭長 18.8; 腹鰭長 25.0。

体は細長く、やや側扁する。尾柄部は高く、尾柄高は最大体高の約 1/2。頭背縁は吻端から背鰭起部にかけてゆるやかに曲がる。眼の外縁は頭部背縁よりわずかに突出する。口裂はよく傾き、下顎は上顎より突出する。上顎後端は眼の中央をわずかに越える。鰓膜は癒合しない。背鰭と臀鰭は一樣に低く、基底が長い。背鰭起部は腹鰭基部直上よりわずかに後方。臀鰭起部は背鰭第 11 軟条起部の直下。胸鰭は円形で大きく、その後端は第 9 軟条直下に達する。腹鰭はよく伸長し、たたむとその後端は肛門を越える。尾鰭は截形で両角は丸い。

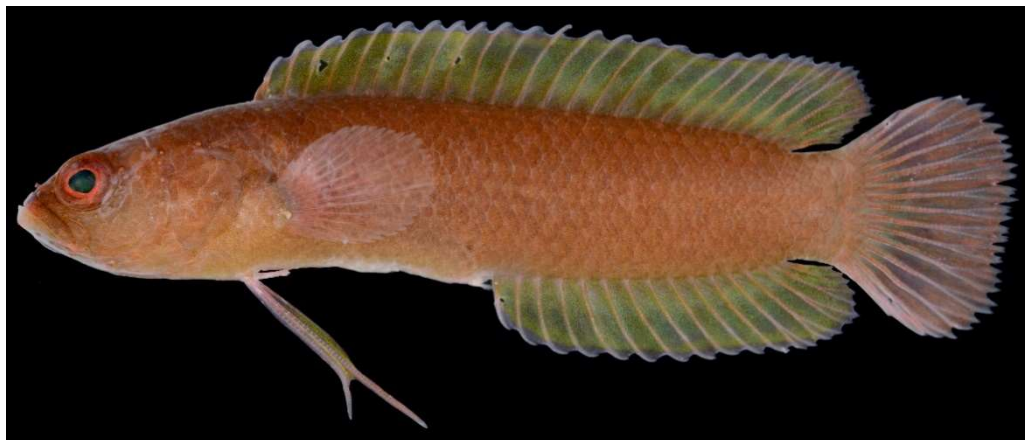


Figure 1. Fresh specimen of *Pseudoplesiops annae* collected from off Otsuki, Kochi Prefecture, Japan. KBF-I 991, 33.6 mm SL.

鮮時の体色—体全体は茶色がかったオレンジ色で、背側は濃く、腹側は淡い。眼から吻部、上顎にかけて赤色がかかる。虹彩はえんじ色で、瞳の周囲のみ赤色。背鰭、臀鰭、および腹鰭の鰭条はオレンジ色で、鰭膜は黄緑色。背鰭と臀鰭の縁辺は白色。胸鰭は鰭条がオレンジ色で、鰭膜は半透明。尾鰭は鰭条、鰭膜ともにオレンジ色、基底付近の鰭膜はわずかに黄色がかかる。

分布 本種はインド洋東部から西太平洋にかけて広く分布し、日本をはじめ、フィリピン、インドネシア、オーストラリア北西部、ソロモン諸島、バヌアツなどから記録されている (Allen and Erdmann 2012; 吉田ほか 2013ab)。日本国内では鹿児島県の硫黄島と奄美大島からのみ記録されていたが (吉田ほか 2013ab; 吉田 2018)、本研究により高知県大月町からも確認された。

備考 高知県大月町沖から得られた本標本は、背鰭軟条数が 26、臀鰭軟条数が 16、体側縦列鱗数が 33、下顎中央に目立った皮弁をもたないなど特徴が Gill and Edwards (2003) や吉田 (2013ab) が示した *Pseudoplesiops annae* の特徴によく一致した。なお、本標本は体高が最大で 22.6%、背鰭軟条数が 26、臀鰭軟条数が 16、胸鰭軟条数が 16、腹鰭が 1 棘 3 軟条、および鰓膜が癒合しないといった特徴が Gill and Edwards (1999) が示したタナバタメギス属の特徴と一致している。ただし、本標本の側線有孔鱗数は 2 であり、彼らの示した側線有孔鱗数が 1 という特徴と異なる。これは大きな違いではあるものの、本標本には他の形質にタナバタメギス属と異なる点が認められなかったことから、本研究においては、この違いを個体変異とみなした。*Pseudoplesiops annae* は吉田ほか (2013a) により鹿児島本土と屋久島・口永良部島の中間に位置する硫黄島産の標本に基づき日本から初めて報告され、標準和名が与えられた。そ

の後、吉田ほか(2013b)や吉田(2018)により、本種が奄美大島にも分布することが示されたが、他の地域からの報告例はない。したがって、高知県大月町沖から得られた標本は、本種の四国沿岸からの初めての記録となるとともに、分布北限を更新する記録となる。なお、今回得られた標本は、内湾のシコロサンゴ群集の外縁付近のサンゴの隙間から得られた。本標本を得た採集調査を通じて、本サンゴ群集においてはチョウチョウウオ科やフェダイ科、ベラ科、ニザダイ科など多様な熱帯性魚類の稚魚が多数確認されており、今回の結果は、本サンゴ群集が四国南西部における熱帯性魚種の幼魚期における稀少な生育場所のひとつとなっている可能性を示唆する一例であるといえる。

謝辞

本研究をおこなうにあたり、多大なるご支援を賜った黒潮生物研究所理事長の深田純子氏、ステラケミファ株式会社の橋本亜希氏、有限会社ブルーハーバーの和田康嗣氏ならびに黒潮生物研究所の目崎拓真氏、戸篠 祥氏、古井戸 樹氏、喜多村鷹也氏、山下 薫氏に謹んで感謝の意を表す。本研究は2020年度独立行政法人環境保全機構地球環境基金の助成金を受けて行われた。

引用文献

- Allen, G.R. and Erdmann, M.V. (2012) *Reef fishes of the East Indies. Volumes 1–3*. Tropical Reef Research, Perth, Australia.
- Gill, A. and Edwards, A.J. (1999) Monophyly, interrelationships and description of three new genera in the dottyback fish subfamily Pseudoplesiopinae (Teleostei: Perciformes: Pseudochromidae). *Records of the Australian Museum*, 52 (1): 141–160.
- Gill, A. and Edwards, A.J. (2002) Two new species of the Indo-Pacific fish genus *Pseudoplesiops* (Perciformes, Pseudochromidae, Pseudoplesiopinae). *Bulletin of the Natural History Museum London (Zoology Series)*, 68 (1): 19–26.
- Gill, A. and Edwards, A.J. (2003) *Pseudoplesiops wassi*, a new species of dottyback fish (Teleostei: Pseudochromidae: Pseudoplesiopinae) from the West Pacific. *Zootaxa*, 291: 1–7.
- Koeda, K., Yoshida, T. and Motomura, H. (2017) First Japanese and northernmost distributional record of *Pseudoplesiops immaculatus* (Perciformes: Pseudochromidae, Pseudoplesiopinae) from the Tokara Islands. *Biogeography*, 19: 55–60.
- 吉田朋弘 (2018) メギス科. Pp. 102–107. In: 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編),

小枝：分布北限記録のカメレオンタナバタメギス

奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市, 国立科学博物館, つくば市.
吉田朋弘・出羽慎一・古田和彦・本村浩之 (2013a) カメレオンタナバタメギス. Pp. 103–106.
In: 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編), 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市.
吉田朋弘・中村千愛・本村浩之 (2013b) 鹿児島県のメギス科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 39: 31–45.

(2020年4月28日受付;2020年5月27日受理)